

令和6年度 学校経営計画

1 学校教育目標

「強い意志と豊かな情操を身に付けた人間を育てる」

- ・主体的に環境に関わり、その意志を実現しようとする児童生徒
 - ・もてる力を十分に生かして、必要な支援の下に自立的な生活を営もうとする児童生徒
 - ・趣味や生きがいのある、心豊かな生活を実践する児童生徒
- <校訓> 明るく、仲よく、たくましく

2 学校の特徴

- ・本校は肢体不自由のある児童生徒に対する教育を行うための特別支援学校である。小学部・中学部・高等部の3学部を設置しており、医療施設（富山県リハビリテーション病院・こども支援センター）に隣接している。また、高等部こまどり分教室が高岡市立こまどり支援学校に併置されている。
- ・在籍している児童生徒は、隣接医療施設又は高岡市さずな子ども発達支援センターで肢体不自由の治療や訓練を受けており、在籍児童生徒の27%が医療施設に入所している。
- ・児童生徒の通学の形態は、隣接医療施設からの通学与保護者送迎による自宅からの通学である。
- ・肢体不自由の単一障害から常時医療的ケアが必要な者など、在籍児童生徒の障害は多様化しており、一人一人の教育的ニーズに対応するため、4種類の教育課程を編成している。
- ・近隣の小学校・中学校・高等学校との交流及び共同学習や居住地校交流を計画的・継続的に行っている。

3 学校の現状と課題

(1) 現状

- ・障害の程度、発達段階が大きく異なる児童生徒が在籍している。また、隣接医療施設に入所して治療や訓練を受け、数か月から数年後に前籍校へ戻る児童生徒の転出入が年間少なからずある。
- ・在籍児童生徒の9割近くが、肢体不自由の程度が重度であり、肢体不自由と知的障害等が重複している。全体の約4割が医療的ケアを必要とする児童生徒である。
- ・児童生徒一人一人の実態やニーズに応じた指導の充実を図るため、学校・家庭・隣接医療施設・関係機関と協力して個別の教育支援計画の作成や情報の共有、キャリア教育等に取り組んでいる。
- ・児童生徒の健康の保持や学力の保障、進路指導等の充実を図るため、教員の肢体不自由教育に関する専門性の向上のための研修を計画的に実施している。
- ・中新川・滑川地域の幼・保・認定こども園・小・中・高等学校の特別支援教育の推進及び県内の肢体不自由児の指導に関して積極的に支援している。

(2) 課題

- ・個に応じた教育課程編成による学力の保障
- ・障害の状態や発達の程度に配慮した健康の保持並びに安全に配慮した支援体制の充実
- ・卒業後を見通した進路指導の充実
- ・隣接医療機関と連携した教育の推進
- ・肢体不自由教育に関する専門性の向上
- ・特別支援教育のセンター的機能の充実

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 【重点1】	目標	・キャリアパスポートの作成を通して生徒が自己理解や自身の成長を振り返ることができるようにするとともに、教員間で生徒の共通理解に活用し、キャリア教育の充実を図る。
		計画 【高等部】	・各学年・教育課程で設定されたワークシートを活用して生徒一人一人がキャリアパスポートを作成し、教科学習、学校行事、就業（生活）体験等において実態に応じた目標設定や振り返りができるようにする。
		目標	・基礎学力や基礎的な生活習慣の定着を図るとともに、社会や身の回りの事象への関心を高め、集団生活、進学先や社会生活に適応する態度や技能を育てる。
		計画 教務	・個々の児童生徒の教育的ニーズや障害の状況に沿った個別の指導計画を作成するとともに、一人一人の実態に応じた教材・教具を工夫し、実践する。
2	学校生活 【重点2】	目標	・児童生徒の健康で安全な学校生活を目指した健康教育の充実を図る。
		計画 【保健】	・保健集会を行い、児童生徒が健康で安全な生活に興味関心をもてるようにするとともに、健康で安全な生活に関する教材・教具、掲示物、図書などの情報提供と貸出しを行い、各学級での指導で活用できるようにする。
		目標	・児童生徒一人一人の障害、機能、体調の状況に応じた適切な摂食指導を行う。
		計画 給食	・教員の専門的知識・技能習得のための研修を行うとともに、児童生徒の実態に合った食形態を提供するために変更手続きを明確化する。
		目標	・児童生徒の災害に対する意識を高めるとともに、教職員の防災に関する知識・技能の向上を図る。
計画 生指	・火災、地震、不審者侵入時を想定した避難訓練を実施し、児童生徒一人一人の安全確保や避難の方法を検討する。		
3	進路支援	目標	・教員や保護者を対象とした福祉サービスの制度や各サービスの内容等を知るための進路に関する学習会等を開催する。 ・児童生徒が自己理解を深め、一人一人が主体的に進路について考えることができるよう支援する。
		計画 進路	・教員や保護者に進路に関するアンケート調査を行い、要望を把握したうえで、ニーズに合った学習会等を実施する。 ・進路指導部が主体となって各学部でキャリアパスポートの作成を計画的に進め、児童生徒が自己理解を深め、適切な進路選択に向けてキャリア教育を推進する。

4	特別活動	目標	・児童生徒の読書環境を整備し、多くの図書に親しめるようにする。
		計画 図書	・「読書週間」「お話を聞く会」などの行事を開催したり、図書室前の掲示を活用したりして、図書に関する啓発を行うとともに児童生徒の読書活動の推進を図る。
		目標	・ボッチャ競技の普及を推進し、児童生徒の運動に親しむ態度を育成する。
		計画 生指	・本校の卒業生であるパラリンピックメダリストを講師として招きボッチャ教室を実施したり、校内ボッチャ大会等を開催したりする。
		目標	・交流及び共同学習における交流活動の充実を図る。
		計画 各学部	・近隣の小・中・高等学校との交流及び共同学習において、相手校との連携に基づき、活動内容を検討し有意義な交流となるよう計画する。
5	その他 【重点3】	目標	・ <u>教員のICT活用能力の向上を図る。</u>
		計画 【情報】	・教員の要望に応じたICT機器の活用に関する研修機会を設定したり、ICT機器の展示や教材の閲覧ができるようにしたりする。
		目標	・児童生徒や保護者にとって有意義なPTA事業を計画・実施する。
		計画 総務	・PTA役員と相談・協力し、児童生徒の実態や保護者のニーズに応じた事業を計画的に進める。
		目標	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教員の授業力向上に関する校内研修の充実を図る。
		計画 研修	・肢体不自由教育に関する専門性を高めるために外部の専門家を招へいし、障害種別研修等を実施する。教員の研修ニーズを把握し、指導内容、指導方法を学び合う機会をオーダー研修として設定する。
		目標	・地域の特別支援学校のセンター的機能としての役割を果たすために、幼・保・認定こども園並びに小・中・高等学校への支援の充実を図る。
		計画 支援	・中新川・滑川地域（滑川市、上市町、立山町、舟橋村）のセンター校として幼・保・認定こども園並びに小・中・高等学校へ教育相談リーフレットを配付し、支援内容の周知を図る。

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和6年度高志支援学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動 - 高等部 -	
重点課題	キャリア教育を充実させた学習活動 ～キャリアパスポートの作成を通して～	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部においてキャリア教育に関する取り組みは、2、3学年対象の就業（生活）体験を柱として行っている。体験前の壮行会や体験後の報告会では、目標設定や振り返りを行い、主体的に自分の進路について考える機会としている。体験後は、体験で得られた成果と課題について教師、本人、保護者で共通理解を図り、必要な力の育成を日々の学習に落とし込んでいくようにしている。 ・体験のない1学年の生徒は、壮行会や報告会の参観を通して就業（生活）体験について学び、次年度からの体験に備えている。I課程の進学希望の生徒には、単なる進学指導に終始するのではなく、進学の目的を考える中で自己理解や課題対応能力が高まるようにしている。 ・キャリア教育に関する目標設定や振り返りは、ワークシートに記入したり、タブレット端末を使って動画や写真で記録したりする等、学級や教育課程によって様々な方法で行っている。しかし、それらを蓄積し、学習に活用したり、教員間で共有したりしていない。 	
達成目標	「キャリアパスポート」の作成を通して、自身の変容や成長を振り返る回数	生徒一人当たり 6回以上
	キャリアパスポート作成に関する教員間の共通理解の回数	3回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部が作成したキャリアパスポートの内容を活用し、学年、教育課程で設定されたシートを利用する。 ・教科学習を含め学校行事（運動会、学習発表会）、就業（生活）体験等において生徒一人一人の実態に応じた目標設定や振り返り方を工夫する。 ・キャリアパスポート作成過程において生徒の変容や成長を振り返ると共に作成及び活用方法や成果、課題について教員間で意見交換を行う。 	

令和6年度高志支援学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活 -保健部-	
重点課題	健康で安全な生活の実現を目指した健康教育の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、学級活動や保健体育等の授業において、健康・安全な生活に関する指導を行っている。児童生徒の健康や安全な生活に対する関心や知識は、一人一人の障害の状況や実態により様々である。 ・昨年度は、日々の熱中症指数や県の感染状況マップを掲示し、児童生徒に健康管理に関する注意喚起を行った。また、「歯と口の健康月間」や「給食週間」に合わせて、図書や映像資料などを展示して貸出しを行ったり、ポスターや標語を募集したりすることで、多くの児童生徒が興味・関心をもって学習する様子が見られた。 ・児童生徒が、望ましい生活習慣について学び、日常生活の中で健康で安全な生活を目指して取り組むことができるよう、生活年齢や実態に合った指導の工夫が求められる。 	
達成目標	健康で安全な生活に関する集会の実施	2回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・保健集会を行い、健康で安全な生活に興味関心をもてるようにする。その後、チャレンジ週間を設け、意識して取り組めるようにする。 (集会のテーマ：例「丈夫な歯を作ろう」「規則正しい生活と健康」)。 ・本校にある健康で安全な生活に関する教材・教具、掲示物、図書などについての情報提供を行う。貸出しを行い、各学級での指導で活用できるようにする。 ・保健集会や教材等に関する情報提供を行った後、教員を対象にアンケートを行い、児童生徒の様子の変化や感想、次年度への要望等を把握する。 	

令和6年度高志支援学校アクションプラン - 3 -

重点項目	その他 -情報教育部-	
重点課題	授業にICT機器を効果的に活用するための取り組み	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童生徒は、タブレット端末に親しみ、音楽や動画を視聴したり、写真や動画を撮影したりして、授業等で活用しているが、その方法は限定されている。 ・多くの教員が、児童生徒の障害の状況や実態に合ったICT教材を、タブレット端末や執務用パソコンなどを利用して作成したいと思っている。 ・障害のある児童生徒に対して有用なアプリケーションやICT機器は、多くあるが、その活用方法が周知されていないものが多く、それらを伝えることにより教員のICT活用能力が向上し、さらなる児童生徒の実態に合った活用が期待できる。 	
達成目標	アプリケーションやICT活用に関する研修会に参加した教員の割合	90%以上
	研修した内容を授業で活用した教員の割合	70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・研修したい内容（アプリケーション、ICT機器などの操作・活用方法など）を把握し、希望のあった内容の研修会を実施する。 ・多くの児童生徒が気軽に体験できるように、また、教員が児童生徒に有用なICT機器（VRゴーグル、視線入力装置、スイッチ類）を見付けることができるように、各学部の学習室に、数週間ずつ、巡回展示を行う。 ・教員が作成したICT教材や活用しているアプリを一覧にして共有化を図る。教員相互で利用し合い、意見交換して研鑽できるようにする。 ・12月にアンケートを実施し、授業での活用状況や児童生徒の変容について把握するとともに、次年度へのニーズを把握する。 	